

新基地建設反対名護共同センターニュース

日米統合合同演習は許さない！



写真右はチャーター船「はくおう」を走行する一般道。隊車両。同右は抗議する人々



日米共同統合演習（キーン・ソード 23）の一環として11月8日、中城湾港に17,000トンもの大型貨客船である防衛省のチャーター船「はくおう」が着岸。73台の自衛隊車両と191人の自衛隊員が陸揚げされ、「有事」のように一般道を移動しました。

嘉手納市、うるま市などから市民約110人が集まり「沖縄を戦場にする演習は許せない！今すぐやめよ」と抗議集会を行い、ゲート前に座り込んで自衛隊車両が出るのを一時阻止しました。その後、かけつけた機動隊員に排除されましたが、県民の抗議の強い意思が示されました。（写真提供・伊保妙子さん）



「有事のようだ」軍用車両が一般道を移動

沖縄のミサイル戦場化を許すな！島々シンポジウム



シンポジウムの様子。左端は司会の山城博治氏。円内は小西氏

「ノーモア沖縄戦 命どう宝の会」は12日、沖縄市内で「沖縄のミサイル戦場化を許さない島々シンポジウム」を開催、260人が参加しました。おりから日米共同統合演習「キーン・ソード23」が展開されているもとで、与那国、宮古、石垣、うるま市の住民代表がミサイル配備などの実態を報告、沖縄の軍事強化に反対の声を上げました。**南西諸島を再び戦場にさせない** 軍事ジャーナリストの小西誠氏が基調報告で「琉球諸島がミサイル攻撃拠点にされようとしている」と訴えました。与那国町の田里千代基町議、「ミサイル基地いらない宮古島住民連絡会」の清水早子共同代表、内原英聡石垣市議、うるま市島ぐるみ会議の照屋寛之共同代表がそれぞれの問題意識を報告。ミサイル配備に反対し、沖縄本島を含む南西諸島を再び戦場にさせないために世論を急速に広げることの重要性を確認しました。赤嶺政賢衆院議員、伊波洋一参院議員も参加しました。

土砂の海上輸送への抗議活動「塩川デイ」にご参加を！



名護市の琉球セメント安和棧橋でも土砂搬出に對し、県民による抗議行動が続いています。このため国道449号線沿いでダンブカー20数台が行列をつくり待機していました。焦ったダンブカーは構内入口へ国道上下線と琉球セメント正面からの3方向から強引に進出し、国道を塞ぐ形になっています。（写真左）

危険でもあり 一般車両の通行妨害
抗議行動中の県民は、「危険でもあり、一般車両の通行妨害となる3方向からの進入はやめるべきだ」と声を上げていました。

安和港での抗議活動も続く
3方向からの進入ダンブの前で

11月21・22日は塩川港へ
本部町島ぐるみ会議は「辺野古新基地を阻止するまで塩川港からの土砂搬出を止めよう！」と11月21日（月）と22日（火）を「塩川デイ」と設定、多くの人に都合のいい時間帯での牛歩戦術への参加を呼びかけています。連絡先は090-9783-5926（阿波根美奈子さん）



4週間ぶりに抗議活動を再開
防衛局が10月13日以降、相次ぐ台風の影響などで中止していた本部町塩川港からの辺野古埋め立て用土砂の海上輸送を11月8日に再開。これを受け本部町島ぐるみ会議などは連日午前7時から午後5時まで牛歩戦術での抗議活動を4週間ぶりに再開しています。